

和光市協働事業実績報告書【平成27年度実施事業】

事業名	みんなで子どもたちを守ります！ ～下新倉小学校学区のフィールドワークと通学路安全マップづくり～
日 時	平成28年5月16日（月）10：00～11：00
場 所	和光市役所6階市民交流スペース
出席者	事業実施団体：NPO 法人こども・みらい・わこう 待鳥、津山、平瀬、松永 担当課：学校教育課 佐藤・樋口 市民活動推進課 中川

1. 事業概要

事業名	みんなで子どもたちを守ります！ ～下新倉小学校学区のフィールドワークと通学路安全マップづくり～
-----	--

事業主体	事業実施団体	行政（担当課）
	NPO 法人こども・みらい・わこう	学校教育課

事業費	予算額	決算額
	190,000 円	249,289 円

事業内容 （実績）	平成28年4月に開校した下新倉小学校は、練馬川口線・水道道路に挟まれており、大型車両を含め交通量が多く、通学路での児童の安全確保が大きな課題となっていた。本事業では、課題解決のために、次の手順でスターティング講座、フィールドワーク開催、マップ作成を行った。 ① 対象地域の交通状況、安全対策等について基本的な知識を得るためのスターティング講座の開催（警察、市によるレクチャー） ② 対象地域のフィールドワーク実施とデータマップ作成 下新倉小学校の通学路（予定）及び子どもたちの活動領域となる周辺道路を中心に、通学区保護者、自治会等に広く声がけして、住民主体のフィールドワークを実施し、得られたデータでマップを作成。 ③ 子どもたちの安全に資するマップの作成 フィールドワークの結果をもとに、危険箇所等に注意を喚起し子どもたちの安全確保に資する通学路安全マップを、フィールドワーク参加者の意見を取り入れながら作成し、2,000部印刷して配布した。
--------------	--

2. 事業結果

	当初	実績
事業 スケジュール	4月～6月 準備 フィールドワークに使用するマップ原版の選定・作成 7月～9月 直前準備 スターティング講座等の打合せ、広報活動、関係機関・団体等への協力要請、連絡等 事業開始 スターティング講座 9月下旬～10月上旬（予定） 10月～12月 事業実施 フィールドワーク、マップづくり 10月～11月（予定） 印刷用マップ作成、フィールドワーク結果のとりまとめ 1月～3月 印刷用マップ最終版完成 印刷 関係機関等への配布	4月～8月 準備（マップ原版として使えるような地図の収集、GISシステムの研究・打合せ、聞き書きマップその他についての調査研究、科学警察研究所、子ども安全まちづくりパートナーズへの協力依頼・打合せ、市関係課への協力依頼等） 9月29日（火）坂下公民館 スターティング講座開催 （学校教育課、道路安全課、危機管理室、朝霞警察署、市民活動推進課が参加協力）参加者 28 名 10月5日（月）坂下公民館 スタッフ研修・フィールドワーク （科学警察研究所、子ども安全まちづくりパートナーズ） スタッフ等 12 名参加 10月14日（水） レクチャー（科学警察研究所・原田豊氏）フィールドワーク実施、データマップ作成（学校教育課、道路安全課、危機管理室、市民活動推進課が参加協力、アシスト・子ども安全まちづくりパートナーズ）参加者 28 名

		11月8日(日) レクチャー(科学警察研究所・原田豊氏)フィールドワーク実施、データマップ作成(学校教育課、道路安全課、Esri Japan が参加協力、アシスト・子ども安全まちづくりパートナーズ)参加者 33 名 11月～1月 フィールドワークのデータをもとに安全点検マップを作成 1月後半～2月前半 印刷 2月13日(土)下新倉小学校入学者説明会で全校児童家庭に配布 下新倉学区を中心に関係機関、自治会、保育クラブ、保育園、幼稚園、児童センター等に順次配布
事業変更理由 *事業内容の変更や計画どおりに進められなかった理由をご記入ください。		

	当初	実績
事業成果指標	① 事業への参加者 地域住民・保護者・自治会他 30 名以上 ② 通学路安全マップの当初配布 1,000 部以上 ※ アウトカム指標 (通学路の安全対策等に関して保護者・地域住民が連携した主体的な活動が継続する。)	① 事業参加者 のべ 101 名 (4回) ② 当初配布数 1,065 部

	団体	担当課
想定以上の事業成果があったか	はい	はい

「はい」と回答した場合、どのような事業成果があったかをご記入ください。

団 体	・市関係課のセクション横断的な協力体制ができ、通学路の安全について対応を図るネットワークができた。今後、活動の横展開を図る際にも連携できる。 ・科学警察研究所や子ども安全まちづくりパートナーズ等の専門機関とつながりができた。また、GISシステムの導入について、Esri Japan の協力を得ることができた。 ・保護者以外に保育クラブ等関係機関や自治会からの参加があり、地域で子どもの安全を考えていく基盤づくりの一步となった。
担 当 課	・実施団体及び関係各課（道路安全課・危機管理室・学校建設準備室・市民活動推進課・学校教育課）が連携して事業に取り組むことができたことは大きな実施成果である。 ・事業実施団体の計画に基づき、科学警察研究所や子ども安全まちづくりパートナーズ等の専門機関の協力を得ることができ、つながりも深めることができた。

3. 協働の結果

(1) プロセスの積み重ね

	団体	担当課
①事業進捗状況の報告を行っていましたか。	はい	はい
②問題が生じたときに、すぐに話し合えましたか。	はい	はい

上の①～②までの項目で、「いいえ」と回答したものがあつた場合、どのようなことでできなかったか、どうあれば良かったかをご記入ください。

(2) 事業の広がり

協働事業の実施により、新しいつながりや連携が構築された場合、その内容を具体的に記入し、このつながりや連携を今後の協働事業の展開にどのように活かそうと考えているかをご記入ください。

（新しいつながりや連携の構築がなかった場合、この欄への記入は不要です。）

団 体	【具体的内容】 ・科学警察研究所や子ども安全まちづくりパートナーズ等の専門機関との連携 ・GIS システム導入にあたり Esri Japan の協力を得た 【つながりや連携の活用】 ・今後活動を他学区に横展開する際、連携したり、アドバイスを得ることが可能。 ・28 年度も継続して GIS システムを導入し、3 年間で既存 8 小学校学区で同様の活動を展開する。（危機管理室との協働事業、教育委員会の協力を得る）
担 当 課	【具体的内容】 ・実施団体及び関係各課（道路安全課・危機管理室・学校建設準備室・市民活動推進課・学校教育課）が連携して事業に取り組むことができた。 ・地域関係者、学校保護者から直接ご意見を伺う機会を持つことができた。また、スポーツ少年団の指導者からは、低年齢層への指導においても教示を受けた。 【つながりや連携の活用】 ・特に道路安全課、危機管理室との連携が深まったことにより、今後、市内小・中学校の通学路等の整備や安全確保の点において共通認識を持ち対応できると考えられる。 ・今回の事業で得たことを他の学校での通学路の安全確保への取組に生かしていくことができる。

（3）市民満足度の向上

	団体	担当課
事業の受益者の満足を得ることができましたか。	はい	はい

「はい」と答えた方は、受益者の満足度を調べるためにどのようなことをしたかを、「いいえ」と答えた方は、その理由を下欄にご記入ください。

団 体	フィールドワーク開催ごとに感想を聞いた。実際に通学路を歩いて勉強になった、異なる視点からの意見が聞けて有意義だった、市職員と意見交換して安心感、信頼感を持つことができた等の感想があった。
担 当 課	P T A 役員、参加保護者、地域の方々から直接話を伺うことができた。行政上の課題を問う意見もあったが、一方的な要望ではなく、協働して子どもの安全を確保するという観点から、共有することができた。

(4) 協働基本原則

「和光市協働指針」では、市民と市が協働を円滑に進めていくための以下の6つの基本原則を定め、これをお互いが理解し、常に協働基本原則に則って取り組んでいくこととしています。これらに則って事業に取り組めましたか。

	団体	担当課
①「相互理解の原則」	はい	はい
②「目的・評価共有の原則」	はい	はい
③「自立の原則」	はい	はい
④「対等の原則」	はい	はい
⑤「役割分担明確化の原則」	はい	はい
⑥「情報公開の原則」	はい	はい

■⑤役割分担について

団体	講座・フィールドワークの企画・運営、マップ作成、マップを活用した啓発、対策の考案、改善提案、受付・問合せ対応、ポスター・チラシ作成広報等・市関係部署との連絡調整。
担当課	会場確保、フィールドワーク・マップ作成に関わるアドバイス・情報提供、市関係部署との連絡調整、ちらし・ポスター配布・広報。

役割分担でよかった点や改善点をご記入ください。

団体	教育委員会を通して各校にちらし配布や広報が行われたこと、坂下公民館の予約をお願いできたこと、プロジェクター等の機材を準備いただいたことは大変助かった。
----	---

■⑥情報公開について

団体	【PR事例】 広報わこう、ポスター掲示（下新倉周辺）、学校・自治会へのちらし配布 【社会的認知度の向上】 市教育委員会との協働により、関係小学校へのちらし配布等が可能となった。
担当課	定例校長会や教頭会において情報発信を行った。

(5) 協働の成果

協働することで、団体、市、市民それぞれにどのようなメリットがありましたか。

団 体	【団体のメリット】 フィールドワークに市関係課の参加を得て、参加者の満足度が上がった。事業の広報、出来あがったマップの配布を教育委員会を通して行えたことで、市民の認知度、満足度が上がった。学区の安全を図るための情報共有が進んだ。
	【市のメリット】 市民目線で通学路の点検マップを作成できた。実際に活動に参加することで地域住民と直接情報共有ができ、市民との信頼関係が構築できた。
	【市民のメリット】 通学路の安全対策について、要望をあげる、交渉する、といった一方通行の形ではなく、情報を共有しながら解決に向けて話し合い、一緒に作業する過程で問題解決の糸口を見つけていく手法を体験し、またマップという形でフィールドワークの成果が「見える化」されたことで一定の達成感があったと考える。
担 当 課	【市のメリット】 関係各課の連携強化

事業を実施したことで、改善が必要だと思われること、思ったとおりできたことは何ですか。

団 体	最終的に配布するマップに仕上げていく過程で、フィールドワーク参加者により関わってもらえるとよかったが、なかなか日程がとれず、ほぼスタッフでの作業となった。(途中見てもらって意見は聞いた。) 危険箇所をどう掲載するかが難しかったが、子ども安全まちづくりパートナーズのアドバイスを得て、子どもたちと大人と一緒に考えられる形にまとめることができた。今後の活用に向けて、呼びかけていきたい。
--------	---

(6) その他

上記以外で、協働事業の成果として特にアピールしたいものがあれば、ご記入ください。また、それが今後の協働事業の発展にどのように貢献すると考えているかをご記入ください。

(特にアピールしたいものがなければ、この欄への記入は不要です。)

団 体	【成果のアピール】 12月13日 セーフティプロモーション学会で活動発表 1月22日 こどもの安全×エビデンス 「聞き書きマップ活用事例」で取り上げられ登壇してコメント 市民主導で市と協働した活動として評価されている。 【事業の発展への貢献】 市と市民の協働により、どちらかが単独で実施した場合には得られない成果が得られることを実感として伝えていければと考える。それぞれの得意なところで役割を果たしていくことが大切。
--------	--